

出雲市病児・病後児保育室だより

令和3年12月発行

第5号～病児・病後児6施設合同おたより～

寒さも少しずつ厳しくなり、本格的な冬の訪れを感じられる頃となりました。病児・病後児保育室は、お子さんが病気又は病気の回復期にあり、集団生活が困難で、保護者が保育をできない場合に利用することができます。今回は、病児・病後児保育室で1日楽しく過ごしていただくために各施設で心がけていること・工夫について紹介したいと思います！

気になった方は
「病児・病後児保育室 出雲市」
で検索してね☆



浜山あおい保育園

病後児保育室 まーま

『まーま』の名前の由来は、まま・お母さんのように子どもさんをやさしく包み込むように看護・保育したいという想いでつけました。どんなに小さい年齢でも気持ちは人に伝わります。少しでも不安な気持ち、体の具合がよくなるようにと思っています。また、食べることは、大人も子どもも楽しみの一つです。まーまの食事は、つい笑顔がこぼれる見た目もかわいい、元気モリモリランチです。厨房スタッフと連携し、症状に合わせたものをお作りしています。心も体も早く元気になってもらえるよう『母の心』でサポートしていきます。

平田保育会病児・病後児保育

ほほえみ

利用するお子さんの病状や体調を細かく観察して把握し、症状に応じたケアをしながら、発達に合った遊びができるようにしています。初日の利用の時には不安になるお子さんも多いので、少しでも心が和むようにBGMを流したり、スキンシップをとるよう心がけています。少し落ち着くと、設置している「はらぺこあおむしのサークル」がみんなのお気に入りの場所。ここで遊ぶといつの間にか笑顔になっていますよ。そして、好評なのが「ほほえみギャラリー」です。ほほえみで撮った写真を掲示していますが、自分や友だちを見つけると大喜び。大人気のコーナーになっています。



おおつか保育園

病後児保育室 いるか組

いるかぐみ楽しかった！また行きたい！と子ども達に言ってもらえるように、一日一日を大切に一人一人と丁寧に関わっています。初めての場所、久しぶりの場所に来るのはお子さんにとってはとても不安であり、そんな不安な表情のお子さんを見ながらお仕事に向かうのは辛いですがね。保護者の方に安心してお仕事に向かっていただけるよう、笑顔の対応と室内の明るい雰囲気作りを心掛けています。又、壁面やおもちゃも人気のあるものを用意したり、医師や保護者の方の許可があれば、少しの時間をテラスやお庭で過ごし季節を楽しんだりします。



あすなろ第2保育園病後児保育室

あすなろキッズルーム

あすなろキッズルームは、看護師・病児保育専門士・保育士を配置し、お子さまの発達に寄り添ったおもちゃを用意し、穏やかな雰囲気の中で保育看護を行っています。手作りおもちゃをはじめとする沢山のおもちゃを揃え、様々な年齢のお子さまに楽しんでいただけるように努めています。異年齢での利用時は部屋ごとに遊びのコーナーを設け、製作、ままごと、ふれあい遊びなど、一人ひとりが好きな遊びを見つけることのできる環境設定を心掛けています。また、お子さまの様子の写真を撮り、利用ブックに貼り、様子をお伝えしています。



わたなべこどもレディースクリニック

病児保育室 ひよこ

年間のべ800人のお子さんが、様々な症状で来られます。好きな遊びをして楽しく過ごされるお子さんもおられれば、熱が高くて一日横になっておられるお子さんもおられます。少しでも早い回復となるように隣接するクリニックと連携し、専任の看護師が見通しをもった看護を。保育士は自分のしたい遊びと病気でも出来る遊びを考え、心を豊かに。また、元気になるためには、栄養と睡眠が必要不可欠！専任の栄養士が、日々変わる子どもの状況に対応しながら食事を提供します。ご家庭との連携も大切にしながら、安心して過ごせる保育室を目指しています。



島根大学医学部附属病院

病児・病後児保育室 ニコニコうさぎ

「今日はお月見だよー」とFちゃんがお話してくれました。熱も下がって体調も良かったので、早速庭のすずきをお部屋に持ち帰り紙粘土でお団子作りしてお月見の準備が始まりました。このような事をしながら安静を保ちその子からの言葉を基に年齢や季節に合わせて子ども達の発想を保育に取り入れたりして、大切にたいせつに関わらせて頂いて日々を過ごしています。初めての子どもさんは不安や緊張でいっぱいだと思います。スタッフと一緒に過ごす事によって、気持ちもほぐれてたくさん笑顔が見られるとうれしいです。



院長とゆかいな仲間たち→